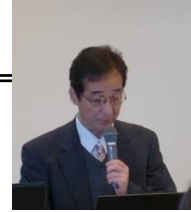


研修名 保健看護研修 1

平成27年度12月21日(月) 10:00~12:30

講演 「保育園における感染症対策」

講師 安井 良則 氏



## 1 講演要旨

### ① 感染と感染症

- ・感染とは…

人に対して病原性をもったウイルスや細菌、真菌などの病原微生物が人の体内に侵入して増殖した状態。

病原微生物が体内へ侵入しても、増えなければ感染ではない。

- ・感染症とは・・・

病原微生物がヒトの体内に侵入して増殖し、有害な影響を及ぼすか、または防御反応（高熱を出すなど）が起こり、人に対して好ましくない反応を引き起こされた状態（発症した状態）。

「感染＝感染症」ではない

感染しても全く症状を示さない「不顕性感染」とくしゃみ、鼻水、発熱などで終わってしまい、感染したことに気付かず「軽症例」で終わってしまうこともある。感染後、病原微生物が増殖し、感染症となるまでには潜伏期間が必要。

### ② 咳エチケットについて

- ・咳やくしゃみをする場合、ハンカチやタオルなどで口を覆い、周囲の人に飛沫しないようにする。

- ・ハンカチなどが無い場合、ひじの内側で口を覆う。

- ・咳やくしゃみが出る場合は初めからマスクをしておく。

マスクを着用することが一番飛沫感染を防ぐことができる。

- ・飛沫感染予防として最も効果があるものが咳エチケット。自分が感染しないようにするにはどうすればよいかではなく、自分の周りに感染を広げないようすることが重要。

### ③ ノロウイルス

- ・主症状は吐き気・嘔吐及び下痢。一日数回から10回以上の時がある。

- ・12月をピークとする冬季の感染性胃腸炎（嘔吐・下痢）。

- ・感染経路として・・・

経口感染（ノロウイルスに汚染された飲料水や食物による感染。）

接触感染（ノロウイルスに汚染された手指、衣服、物品などに触る。  
または、接触後汚染された手指や物品を口の中に入れる。）  
飛沫感染（吐物や下痢便が床などに飛び散り、周囲にいてその飛沫を  
吸い込み感染。→1、5 mから嘔吐物が落ちてきたら  
約1、5 m 飛び散っていると考えた方が良い。）

- ・治療法として、対症療法（吐き気止めや整腸剤、水分補給）が中心。  
※水分補給に一番効果的なのはOS1（経口補水液）。園に保管しておくのも良い。

#### ④RSウイルス感染症

- ・RSウイルスが感染者の鼻汁などから接触感染あるいは飛沫感染により伝播する呼吸器感染症。
- ・12月か翌年の1月がピークと言われている。
- ・主な感染経路は飛沫感染と接触感染。感染していても気付けないことが多く、家族間の感染や乳幼児の集団生活施設などで流行を効果的に抑制することは困難。

※抱っこは濃厚接触。保育施設の0・1歳児クラスでは最初に発病した子どもから感染した保育士が、軽度の感冒様症状を呈したまま出勤し、他の子どもの感染源となることは珍しくない。

飛沫感染対策としてマスクを着用し咳エチケットに努める

接触感染対策として手洗いもしくはアルコールによる手指消毒剤による手指衛生を行う

職員も含め全員が実行すること！

- ・治療法として、特異的な治療法はないが、適切な水分補給を行い、脱水を起こさないようにすること。経口補水液はロタウイルス胃腸炎による脱水症のコントロールのために、世界中で広く用いられている安全で効果的な手段。

## 2 感想

感染症について講演され、今後の感染症対策にとっても役立つものばかりでした。感染症を各項目に分けて説明され、関心のあるものばかりだったので、この講演を聞くことが出来て良かったです。今後の感染症対策を見直すよい機会にもなりました。また、咳エチケットについてとても強くお話をされていたので、マスクを着用することが一番防ぐことが出来ると改めて感じました。



（記録 南山城保育園 鍋島有紀恵）